

海に親しみ ふるさとにほこりと愛着を持つ児童の育成

～海に関する体験活動を通して～



能登町立小木小学校

海洋教育 カリキュラム

低学年 海洋教育カリキュラム

【生活科】

1年生・・・海の植物

2年生・・・海の動物

A 海に親しむ

A-a 海辺を歩いてみよう

- (1) 浜辺の生き物を見付けよう
- (2) 砂浜で遊ぼう

A-b 海辺の探検に行こう

- (1) 海の生き物を育てよう

B 海を知る

B-a 海の生き物を知ろう

- (1) 海の生き物の名前を調べよう

B-b 海の乗り物について調べよう

- (1) 海を航行する船について調べよう
→イカつり船見送り

B-c 海の生き物を調べよう

- (1) いろいろな場所にすむ生き物を調べよう
- (2) 季節による生き物のようすを調べよう

C 海を守る

C-a 人々の暮らしと海の自然について考えよう

- (1) 海辺のゴミを拾おう
→1年生のボランティア活動

D 海を利用する

D-a 海による地域の結びつきについて調べよう

- (1) 海辺の行事に参加しよう
→イカつり船見送り

～1年生～

○砂浜で遊ぼう

- ・砂, 海そう, 漂着物で遊ぶ
- ・波で遊ぶ

○海の生き物の名前を調べよう

- ・海そう(植物)の名前を知る
- ・季節によってみられる種類, 形, 大きさ, 色の違いを知る

～2年生～

○浜辺の生き物を見付けよう

- ・砂浜, 磯の生き物を見付ける
- ・生き物の特徴を観察する

○海の生き物の名前を調べよう

- ・生き物(動物)の名前を知る

○海の生き物を育てよう

- ・色や形, 大きさ, すみかの違いを観察する
- ・周辺の環境との関わりを考える
- ・生き物の変化や成長に気付く
- ・生命を大切に作る心を育む

○いろいろな場所にすむ生きものを調べよう

- ・地形によってみられる生き物の種類を知る
(砂浜, 磯, サンゴ礁, 海の深さ)

中学年 海洋教育カリキュラム

【総合的な学習の時間】 3年生・・・環境学習（海）～地域学習
4年生・・・地域学習～環境学習（町全体）

A 海に親しむ

- A-b 海辺の探検に行こう
(2)海に関する施設を見学しよう

B 海を知る

- B-c 海の生き物を調べよう
(3)海の生き物と淡水の生き物について調べよう
- B-d 海の自然について知ろう
(1)海と川や山との関係について調べよう
→他校(山の学校)との交流授業
- B-e 海にかかわる歴史について調べよう
(1)海にかかわりの深い伝統と文化について調べよう
→伴旗まつりの調べ学習

C 海を守る

- C-a 人々の暮らしと海の自然について考えよう
(2)海岸の環境保全に取り組もう
(3)海の自然を守る気持ちを表現しよう
- C-b 環境の変化と海との関係を調べよう
(1)海岸の漂流物はどこから来たのか調べよう

D 海を利用する

- D-b 海で働く人々の生活について調べよう
(1)地域にある海の産業について調べよう
(2)地域にある水産業について調べよう

～3年生～

～1学期～

- 海の生き物を調べよう
 - ・海と川の(環境による)生き物の違い
 - ・海と川を行き来する生き物
- 海と川や山との関係について調べよう
 - ・水の流れによって生き物・ごみが流れ着く

～2学期～

- 海岸の漂着物はどこから来たのか調べよう
 - ・海流、風などの自然現象が原因
- 海岸の環境保全に取り組もう
 - ・海岸のごみ拾い
- 海の自然を守る気持ちを表現しよう
 - ・豊かな自然、海の環境について発信する

～3学期～

- 海にかかわりの深い伝統と文化について調べよう
 - ・海に関する年中行事、それに携わる人々の生活

～4年生～

～1・2学期～

- 地域にある海の産業について調べよう
 - ・伝統的な産業であるイカ釣り船
- 海に関する施設を見学しよう
 - ・漁協見学に行く
- 海で働く人々の生活について調べよう
 - ・地域の生産、販売
 - ・産業発展に向けての工夫
 - ・海の産業

～3学期～

- 海岸の環境保全に取り組もう
 - ・生活排水やごみの捨て方が関わっていることを知る

高学年 海洋教育カリキュラム

【里海科】 5年生…環境学習, 生命の誕生(理科), 水産業(社会)
6年生…キャリア教育, 海の動物と植物(理科), 海の資源(社会)

A 海に親しむ

A-c 海に関わる仕事を見学しよう

- (1) 漁師の仕事を体験しよう
- (2) 海にかかわる仕事を見学しよう
- (3) 海にかかわる活動を体験しよう

B 海を知る

B-c 海の生き物を調べよう

- (4) 海の魚について調べよう
- (5) 海の植物について調べよう
- (6) 海の生き物の誕生を調べよう

B-d 海の世界について知ろう

- (2) 海の生き物の関連について調べよう

B-e 海にかかわる歴史について調べよう

- (2) 海を通じた文化交流の歴史を調べよう

B-f 海の様子を知ろう

- (1) 海流や潮の満ち干, 海底の地形について調べよう

C 海を守る

C-a 人々の暮らしと海の世界について考えよう

- (4) 日本の水産業と海洋環境について調べよう

C-b 環境の変化と海との関係を調べよう

- (2) 海の世界の変化と生き物の暮らしについて調べよう
- (3) 海の世界の変化と人々の暮らしについて調べよう
- (4) 地球温暖化と海の世界の変化について調べよう

C-c 海にやさしい暮らしについて考えよう

- (1) 人々の暮らしが海に及ぼす影響について調べよう

D 海を利用する

D-b 海で働く人々の生活について調べよう

- (3) 日本の水産業について調べよう
- (4) 日本の海運について調べよう

D-c 海による世界との結びつきについて調べよう

- (1) 世界の海運について調べよう
- (2) 世界の結びつきと海運の働きについて調べよう

D-d 海の資源

- (1) 日本の海洋でのエネルギー開発について調べよう

里海活動年間計画

里海科年間計画

1年生・・・海の植物	A[海に親しむ]	
2年生・・・海の動物	A[海に親しむ]	B[海を知る]
3年生・・・環境学習	C[海を守る]	
4年生・・・地域学習	A[海に親しむ]	D[海を活用する]
5年生・・・地域・環境学習	B[海を知る]	C[海を守る]
6年生・・・キャリア学習	A[海に親しむ]	

月	題材名(教科)	指導の内容	
		内容	学習活動
4月			
5月			
6月	<きせつともだち みなさんこんにちは> ・さんぽのことをおしえて うみのなつをさがそう (生活科：4時間)	A-a	① のと海洋ふれあいセンターの海辺に行き、里海の夏の様子を諸感覚で感じながら、海辺の自然と触れ合う。 ② 磯遊びで各自が見付けて採集した海藻や貝について交流する。 ③ 海辺で気付いたことや発見したことを発見カードに書く。 ④ 「なつのうみまっぷ」を作り、夏の里海の様子をまとめる。
7月	・なつさがしをしよう みずやつちであそぼう (生活科：2時間)	A-a	① 五色が浜の砂浜に行き、砂浜や海水で遊んだり、夏の特徴を探したりする。 ② 遊んだことや見付けたことについて、絵や言葉で表し、友達に伝える。
9月			
10月	<きせつともだち いろやかたちをたくさん みつけた> ・夏と秋のうみをくらべよう (生活科：3時間)	B-c	① のと海洋ふれあいセンターの海辺に行き、夏に来たときとの違いや変化を探したり、秋の特徴を探したりする。 ② 海辺で気付いたことや発見したことをカードにかき、伝え合う。 ③ 「あきのうみまっぷ」を作り、「なつのうみまっぷ」と比べ、気付いたことを話し合う。
11月	・あつめたものでなにができるかな (生活科：3時間) (図画工作：2時間)	A-a	① 集めた木の実や貝殻を見て、できる遊びや道具を考える。 ② 遊び道具の設計図を作る。 ③ 設計図をもとに木の実や貝殻を使って遊び道具を作る。 ④ 遊び道具を使って遊び、面白い所や工夫しているところを話し合う。 ⑤ さらに楽しく遊べるように工夫して作る。
12月			
1月	<きせつともだち いろやかたちをたくさん みつけた> ・夏と冬の海をくらべよう (生活科：3時間)	B-c	① のと海洋ふれあいセンターの海辺に行き、夏に来たときとの違いや変化を探したり、冬の特徴を探したりする。 ② 海辺で気付いたことや発見したことをカードに書き、伝え合う。 ③ 「ふゆのうみまっぷ」を作り、「なつのうみまっぷ」と比べ、気付いたことを話し合う。
2月			
3月			

※内容 A海に親しむ B海を知る C海を守る D海を利用する

月	題材名(教科)	指導の内容	
		内容	学習活動
4月			
5月	<生きものといっしょに> ・いろいろな生きものをして いるよ(生活科:2時間)	B-a	①見たことのある海の生きものを話し合う。 ②知っている生きものについて図鑑で調べる。
6月	<発見!町へ飛び出そう!> ・海に出かけよう (生活科:6時間)	A-a B-a	①海の生きものを採取する ②海の生きものを観察し、名前や特徴を調べる。 ③見つけた生きものの特徴をカードにまとめ、「いその生きものマップ」に貼る。 ④マップを見て気付いたことを交流し合う。
7月			
9月	<生きものといっしょに> ・たいせつにそだてるよ (生活科:4時間)	A-a B-c	①育てたい生きものを採取する。 ②生きものが好む住みかや餌を調べ、まとめる。 ③住みかにつかえそうな材料を採取する。 ④住みかを作る。
10月	<生きものといっしょに> ・よく見ると… (生活科:4時間) <生きものといっしょに> ・教えてあげたいな (生活科:8時間)	A-b	①世話をする。 ②生きものに適した世話を考える。 ③生きものの観察を繰り返し行い、観察したことをカードにまとめる。 ④生きもの紹介カードを作成する。 ⑤飼育した楽しさや気づきをまとめて、1年生に紹介する。
11月	<生きものといっしょに> ・ずっといっしょにいたいけ ど… (生活科:2時間)	B-c	①生きものにとってどうすることが幸せか考える。 ②お別れの手紙を書き、生きものを海に返す。 ③育ててわかったことや不思議に思ったことを振り返りまとめる。
12月			
1月			
2月			
3月			

※内容 A海に親しむ B海を知る C海を守る D海を利用する

月	題材名(教科)	指導の内容		
		内容	学習活動	
4月	海の生き物を調べよう ～海と川の生き物の違いから～ (20時間)	A-b	①これまでの学習を振り返り、九十九湾にいる生き物について話し合う。 ②九十九湾を探検し、生き物や生き物の特徴を知る。 ③九十九湾を探検し分かったことをまとめる。 ④久里川尻川(松波)にどんな生き物がいるか予想する。 ⑤久里川尻川を探検し、生き物や生き物の特徴を知る。 ⑥久里川尻川を探検し分かったことをまとめる。 ⑦海と川の生き物は、住んでいる環境の違いによってどのような違いや似たところがあるのか考える。 ⑧海と川を行き来する生き物について知る。 ⑨これまでに分かったことをまとめる。	
5月		B-c		
6月				
7月	わたしたちの海を守ろう ～海・川・山の関係は?～ (36時間)	B-d		①海と川と山の関係について調べる。 ②水の流れによって陸のごみが海へ流れ着くことを知る。
9月	～美しい小木の海に～	C-b		
10月				
11月		C-a		
12月	伴旗祭りについて調べよう (6時間)	B-e		①伴旗祭りについて知っていることや知りたいことを話し合う。 ②伴旗祭りについて知りたいことを家族や近所の人にインタビューする。 ③伴旗祭りの笛や太鼓を体験する。 ④地域のG Tを招いて、インタビューをする。 ⑤分かったことまとめる。
1月				
2月	1年間の振り返りをしよう (8時間)	C-a	①どのような活動をしたか振り返る。 ②まとめ方を考える。 ③自分たちができることを考える。 ④まとめをする。 ⑤交流する。 ⑥1年間の活動を振り返る。	
3月		A-b		
		B-c, d, e		
	C-a, b			

※内容 A海に親しむ B海を知る C海を守る D海を利用する

月	単元名(時数)	指導の内容	
		内容	学習活動
4月	イカす会に参加しよう (5時間)	D-a	①昨年度の活動を振り返り、環境保全活動に取り組む。 ②イカす会に参加し、活動報告をする。 ③参加して感じたことを伝え合う。
5月		C-a	
6月	小木の産業について知ろう (22時間)	D-b	①イカす会の参加から、小木のイカ釣り産業について考える。 ②能登町の小学4年生を対象にアンケート調査を行う。 ③結果を集計し、課題について話し合う。 ④学習計画を立て、今後の活動の見通しを持つ。
7月		B-e	
8月		A-b	
9月	小木発信プロジェクト ～小木の町をPRしよう～ (30時間)	D-b	⑤イカの「漁」「体のづくり」「伝統的な料理」の3つのグループに分かれて調べ学習をする。 ⑥調べたことを新聞にまとめ報告し合う。 ⑦もっと知りたいこと・調べたいことを明確にし、活動計画を立てる。 ⑧イカ漁について、小木漁協へ行き話を聞く。 ⑨イカの体のづくりと伝統的な料理について、地域の方々をGTとして招き、調理実習を交えながら教えていただく。 ⑩学んだことをもとに、何についてどのように発信するか話し合う。
10月			
11月			
12月			
1月			
2月	1年間のふり返りをしよう (8時間) 他の地域との違いを知ろう (5時間)	C-a	①校内里海発表会に向けて、学んだことをプレゼンにまとめる。 ②発表する。 ①感想交流し、他地域との産業の違いを知る。 ②他にも地域による違いがないか考える。 ③環境の違いに気付き、小木の町の現状を知る。 ④次年度への見通しを持つ。
3月			

※領域 A海に親しむ B海を知る C海を守る D海を利用する

月	単元名 (時数)	指導の内容		
		領域	学習活動	評価規準
4月	オリエンテーション 【総合】(1時間)	B-f	①海に関する学習で4年生までの既習事項を振り返り、1年間の学習の見通しを持つ。	Ⅲ海の環境に問題を見だし、計画的に追究しようとしている。
	環境問題について考えよう 【総合】(3時間)	B-d C-a	①海の環境についてGTから話を聞く。 ②現在の小木の町の現状から学習課題をもつ。 ③小木の町のごみ調査にでかける。 ④調査結果を表にまとめる。	Ⅰ海洋ごみが世界的に問題となっていること、海の生き物たちに影響していること、海流によってごみが流されていることを知ろうとしている。 Ⅱどこにどのようなごみが落ちているのか表にまとめている。
5月	イカす会に参加しよう 【総合】(2時間)	B-c B-e	①地域の活性化をめあてにした「イカす会」に参加して、イカ釣り船の様子やイカの生態を知る。	Ⅲイカ釣り船のしくみやイカの生態に興味を持って活動している。
6月	イカ釣り船団見送り 【総合】(1時間)	B-e	①小木地区におけるイカ釣り船団の様子から伝統的な産業であることを知る。	Ⅰイカ釣り船団の見送りを通してイカ漁に興味を持ち、伝統的な産業であることを知ろうとしている。
	魚のたんじょう 【理科】 (11時間)	B-c	①魚の誕生に興味をもち、メダカが産卵するには雄と雌をいっしょに飼う必要があると考え、メダカの雌雄を飼育して卵を産ませる準備をする。 ②生まれたメダカの卵を観察し、卵はどのように変化するか予想する。 ③メダカの卵の変化に興味をもち、子メダカが生まれるまでの卵の中の様子を、解剖顕微鏡を正しく操作して観察し記録する。 ④数日ごとにメダカの卵の中の変化を解剖顕微鏡で観察し記録し、かえった子メダカを観察し記録する。 ⑤魚の中の卵の成長の変化をまとめる。 ⑥ウニの成体や放卵、放精、受精の様子を顕微鏡で観察する。 (講師を招いてTTで指導する。) ⑦⑧水の中には魚の食べ物があるかを話し合い、水槽や池の水を顕微鏡で調べメダカの食べ物と水の中の小さな生き物についてまとめる。 ⑨メダカの食べ物と水の中の小さな生き物についてまとめる。 ⑩魚の卵の中での成長と水の中の小さな生き物についてまとめる。	Ⅲ動物の発生や成長を意欲的に追究し、生命を尊重したり自然の力の大きさを感じたりするとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとしている。 Ⅱ動物の発生や成長に興味をもって追究し、量的変化や時間的変化について考察し、表現している。
7月				Ⅰ動物を育てたり、問題解決に適した方法を工夫したりして観察を行い、その過程を記録している。 Ⅰ動物の発生や成長について、生命の連続性について実感を伴って理解している。

9月	環境問題について考えよう 【総合】(2時間)	C-b	①調査結果をマップやグラフにまとめる。 ②分かったことから次時の課題をもつ。	Ⅲ調査したことをマップやグラフにまとめようとしている。 Ⅱ地域ごとに落ちているごみの種類や量が違うことに気付き、問題点について考えている。
	日本の水産業について調べよう 【社会】(8時間)	D-b	①わたしたちが多くの水産物を消費していることを調べることにより、日本全体や能登町が水産物の消費量が多い理由を考える。 ②海流や大陸棚の関係から、日本の周辺がよい漁場になっていることを地図やグラフを関連付けて読み取る。 ③能登沖がよい漁場になっていることや様々な施設が充実していることを資料から読み取る。 ④能登町で行われている漁業を調べる。 ⑤「うみとさかなの科学館」へ行き、漁業就業者の工夫や努力についてお話を聞く。 ⑥調べたことと学んだことを「能登町漁業ブック」としてまとめる。 ⑦これからの水産業で大切だと思うことを話し合う。	Ⅲ我が国や能登町の水産業の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、自分たちの食生活を支える我が国の水産業の発展を考えようとしている。 Ⅱ我が国や能登町の水産業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことを基に、我が国の水産業が自分たちの食料を確保するために重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考え、調べたことや考えたこと適切に表現している。 Ⅰ水産業が自分たちの食生活を支えていること、主な漁港、漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、現在の問題点や今後に向けての取組を地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して調べている。 Ⅰ我が国や能登町の水産業が自分たちの生活を支えていること、主な漁港、漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解している。
10月				
11月	環境問題について考えよう 【総合】(2時間)	C-c	①海の環境を守るために自分たちにできることを考える。 ②発信する内容と方法について話し合う。 ③今後の学習計画を立てる。	Ⅰ海洋ごみの発生源を知り、問題点について理解している。 Ⅱ海洋ごみを減らすために、自分たちにできることと、社会全体としてできることを話し合っている。 Ⅲ学んだことを思い出しながら、なぜ海洋ごみを減らすと良いのかを考えながら活動している。

12月	日本の工業の特色 【社会】(2時間)	D-b D-c	①原料やエネルギー資源がどこから運ばれてくるのか、資料をもとに調べる。 ②主な原料やエネルギー資源が外国から輸入していることに気付き、輸入するためにタンカー船を使っていることを知る。	I 日本の工業が原料やエネルギー資源の多くを海外から輸入していることに気付き、その輸入品の移り変わりや輸入方法を理解している。
1月	環境問題について考えよう 【総合】(4時間)	C-c	①自分たちにできることを動画で発信する。 ②社会全体として取り組む内容を提案書としてまとめ発信する。 ③発信後、感想交流を行う。 ④今年度の学習を振り返り、今後の環境問題について再度見つめ直す。	III これまでに調べたことを、相手意識や目的意識を持って伝えようとしている。
2月				II 相手意識を持ち、効果的に発表するための方法を考え、話し合っている。 I 伝えたい事柄を選んだり、効果的に伝えるための話し方や発表の仕方を工夫したりしている。 I 伝えたい事柄を明確にし、効果的に伝えるための方法や手法を理解している。
3月				

※領域 A 海に親しむ B 海を知る C 海を守る D 海を利用する

- | |
|---|
| I・・・知識および技能
II・・・思考力・判断力・表現力
III・・・学びに向かう姿勢、人間性 |
|---|

月	単元名 (時数)	指導の内容		
		領域	学習活動	評価規準
4月	オリエンテーション 【総合】(1時間)	B-f	①海に関する学習でこれまでにしてきたことを振り返り、1年間の学習の見直しを持つ。	Ⅲ1年間の学習の見直しを持ち、里海科の学習に興味や関心を持っている。
	イカす会に参加しよう 【総合】(4時間)	B-c	①イカについて(取り方・イカの体など)調べる。	Ⅲイカす会や海岸クリーン作戦に参加することを通して、イカのまち小木の一員として活動しようとしている。 Ⅱ海岸クリーン作戦を通して、海を大切にすることを養っている。 Ⅰイカの取り方やイカの体などについて調べ、発表している。 イカ釣り船の様子やイカの生態について理解している。
A-a C-a		②イカす会に参加する。 ③海岸クリーン作戦に取り組む。 ④活動を通して、まとめたことを発表する。		
5月	大陸の文化を学ぶ 【社会】(2時間)		①現在の客船が大型で快適であることと比べ、遣唐使たちが使った遣唐使船は遭難することが多かった理由を話し合う。 ②遣唐使、留学生、鑑真などはたらきについて調べ、聖武天皇が大陸の優れた文化を取り入れ国づくりに役立っていたことを知る。	Ⅰ聖武天皇は新しい国づくりのために大陸との交流を進め、大陸文化などを積極的に取り入れようとしていたことを理解している。
	イカ釣り船団見送り 【総合】(1時間)	B-e	①小木地区におけるイカ釣り船団の様子を知る。	Ⅲイカ釣り船団の見送りを通して、イカ漁に興味を持ち、地域への愛着を持っている。
6月	漁師の仕事を知ろう 【総合】(12時間)	D-b	①学習の課題を設定し、計画を立てよう。 ②漁師の仕事について調べる。 ③漁師の仕事場や施設を見学する。	Ⅲ漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いを知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。 Ⅱ漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いを知り、働くことの意義を理解しようとしている。 Ⅰ漁師の仕事について調べ、話を聞くことを通してレポートにまとめている。 海にかかわる仕事について考えることを通して、漁師の思いが能登町の漁業の発展につながることを理解している。
		A-c	④漁業関係者をGTとして招き、漁業に関する話を聞いたり、仕事に対する思いを聞いたりする。 ⑤漁師の方に手紙を書く。 ⑥漁師の仕事についてレポートにまとめる。	
7月				

9月		A-c	能登高校「おとり丸」乗船体験 (台風やしけで出航できない場合もある。)	Ⅲ おとり丸乗船を通して、能登町の漁業に興味を持ち、地域への愛着を持っている。
10月	海にかかわる仕事について調べよう 【総合】(7時間)		① 1学期の学習について振り返り、漁師以外の身近な海にかかわる仕事について調べる学習課題を持つ。 ② 海にかかわる仕事にはどんなものがあるか調べる。 ③ 興味を持った職業について調べたり、取材を行ったりする。 ④ 施設や職場の見学を行う。 ⑤ 調べた内容をまとめる。	Ⅳ いろいろな職業や生き方、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連を理解し、今しなければならないことや、これからの生き方、進路を考えることができる
11月				Ⅱ 海にかかわる仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、働く人の思いを知り、今の自分にできることを考えている。
12月				Ⅰ 海にかかわる仕事について調べることを通して就きたい仕事やなりたいものなどを追求しようとしている。
1月	調べたことを発信しよう 【総合】(8時間)		① 様々な職業についての調べ活動を振り返り、調べたことを里海発表会で3～5年生に発信する計画を立てる。 ② これまでに学習してきた情報発信の方法を振り返り、職業について調べたことを発信する方法を考える。 ③ 自分が選択した発信方法で、より効果的な表現方法を考える。 ④ G Tを招き、より情報が伝わる方法を聞く。 ⑤ 自分なりの方法で調べたことをまとめる。	Ⅰ 情報発信の方法を学ぶことを通して、多様な発信方法がありそれぞれに特徴があることを知り、場面や内容に応じて活用しようとしている。
2月				Ⅱ 相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現している。
				Ⅲ 探究的な活動を通して、自分の生き方を考え、夢や希望などを持つことができる。
3月		A-f	① 1年間学習したことを発表し、里海科の活動を振り返り今後の自分のかかわり方を考える。	Ⅲ これまでに調べたことを、相手意識や目的意識を持って伝えようとしている。

※領域 A 海に親しむ B 海を知る C 海を守る D 海を利用する

I . . . 知識および技能
II . . . 思考力・判断力・表現力
III . . . 学びに向かう姿勢、人間性

総合的な学習の時間 年間指導計画

(3～6年生)

令和2年度 第3学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画

学年テーマ		小木の海を発見しよう										総時数	70時間	
めざす児童の姿	里海の自然や暮らしを学び、そこに住む人々の苦労や願いを知ることによって、地域を大切にすることを育む	資質・能力	知識及び技能	小木の海について知り、問題点に気づくことができる。										
			思考力、判断力、表現力等	調べたいこと的情報を収集し、分析できる。										
			学びに向かう力、人間性等	小木の海をきれいにするために、自分たちができることを考え、行動する。										
具体的な学習プラン	実施月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	単元・活動の流れ	わたしたちの海を知ろう			わたしたちの海を守ろう			伴旗祭りについて			1年間の振り返りをしよう			
		○九十九湾の生き物を調べる。 ・☆九十九湾を探検し分かったことをまとめる。 ◇久里川尻川にどんな生き物があるか予想する。 ○久里川尻川の生き物を調べる。 ・☆久里川尻川を探検し分かったことをまとめる。 ・海と川の生き物を比べる。 ☆これまでに分かったことをまとめる。			◇海・川・山の関係を調べるという課題をもつ。 ○海・川・山の関係を調べる。 ・☆水の流れによって陸のごみが海へ流れ着くことをまとめる。 ◇流れ着いた海洋ごみについて話し合う。 ○海岸清掃をする。(調査のため) ・ごみの分別をする。 ☆ごみを分別して分かったことをまとめる。 ◇小木の海を守るために自分たちができることを考える。 ☆海岸清掃をする。(環境保全のため) ☆ポスターを制作する。			◇伴旗祭りについて話し合う。 ○伴旗祭りについて知りたいことをインタビューする。 ○伴旗祭りの笛や太鼓を体験する。 ○地域のGTにインタビューする。 ・☆分かったことをまとめる。			☆1年間の総合の学習を振り返って、小木の海について分かったことをまとめる。 ☆調べたことを異学年の児童や地域の人に発表する。			
		評価方法	・活動の様子(行動観察) ・ワークシート・制作物			・活動の様子(行動観察)・ワークシート ・制作物			・活動の様子(行動観察) ・ワークシート			・活動の様子(行動観察) ・発表		
		指導体制	里海研究所			海上保安署			小木公民館			小木公民館 海洋ふれあいセンター		
教科等の関連	【国語】【理科】			【理科】【図工】【道徳】			【国語】【社会】【音楽】			【国語】				
◇課題の設定 ○情報の収集 ・整理、分析 ☆まとめ、表現														

令和2年度 第4学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画

学年テーマ		能登町の海と産業について調べ、地域活性化プロジェクトに取り組む。									総時数	70時間		
め ざ す 児 童 の 姿	里海の産業の現状を知り、里海のよさや自慢できることを発信し、地域を大切にすることを育むとともに、環境について考え、次年度に向けて見通しをもつ。	資 質 ・ 能 力	知識及び技能		能登町の海と産業について調べ、地域の方々の思いを知ることができる。									
			思考力、判断力、表現力等		私たちの住む町のことを発信するための方法を考え、調べたことをもとに判断し表現することができる。									
			学びに向かう力、人間性等		私たちの住む町のことを発信するために生じる課題を解決することができる。									
実施月		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
具 体 的 な 学 習 プ ラ ン	単元・活動の流れ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 小木発信プロジェクト～小木の産業をPRしよう～ </div> <p>◇イカす会に参加しよう。 ○小木はイカ釣り漁業が盛んであることを知る。 ・能登町の他地域の認知度を予想する。 ☆アンケート調査を行い、後日アンケート結果をまとめる。</p> <p>◇能登町の小学生に「小木の町はイカの町」であることを知ってもらおう。 ○イカの「漁」「体のつくり」「伝統的な料理」の3つのグループに分かれて調べ学習に取り組む。 ・アンケート結果をもとに、伝えたい内容をまとめ分類する。 ☆グループごとに調べたことをシートにまとめ伝え合う。</p> <p>◇イカについてもっと詳しく知ろう。 ○漁協へ行きイカ釣り漁について詳しい話を聞く。 ○小木の地域の方を招き、イカの家産料理について話を聞く。 ・教えていただいたこと、調べたことをから、何についてどのように発信するか話し合う。</p>							<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 地域交流しよう </div> <p>◇能登町の小学4年生に発信しよう。 ☆紙芝居「小木イカ物語」を読む様子を動画撮影する。 ☆レシピ本を冊子にする。 ○紙芝居とレシピ本の感想をもらう。 ・他地域との産業の違いを理解する。</p> <p>◇他の地域との違いについて考えよう。 ・経験や知識から、産業以外にも違いがあることを話し合う。</p> <p>◇小木の町の環境問題について考えよう。 ○他地域の様子を調査する。 ○小木の様子を予想する。 ・次年度にむけての取組を計画する。 ☆学習計画として次年度に引き継ぐ。</p>					
		評価方法	・ワークシート ・行動観察 ・調べ学習							・ワークシート ・行動観察 ・成果物			・行動観察 ・成果物	
		指導体制	・能登里海教育研究所 ・小木漁協 ・地域の方々 ・和平商店 ・能登町内の小学4年生							・能登里海教育研究所 ・小木漁協 ・イカ釣り漁船 ・地域の方々 ・和平商店 ・能登町内の小学4年生			・能登里海教育研究所 ・小木漁協 ・能登町内の小学4年生	
		教科等の関連	【国語】【社会】							【国語】【社会】			【国語】【社会】【理科】 【プログラミング教育】	
◇課題の設定 ○情報の収集 ・整理、分析 ☆まとめ、表現														

令和2年度 第5学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画

学年テーマ		海と私たちの関わりについて思いを深め、自然環境を守る。										総時数	70時間
め ざ す 児 童 の 姿	他教科の学習内容と関連させ「海を知る」ことを通して、海への関心を高め、海と人との共生のための「海を利用する」や「海を守る」ことの大切さを感じるとともに、自然環境と人々の生活との関わりを大切にすることを養う。	資 質 ・ 能 力	知識及び技能		海洋ごみ問題の発生源や問題点、改善策について様々な機関と協力し、必要な情報を収集することができる。								
			思考力、判断力、表現力等		なぜごみが多いのか、どうすれば減らせるのか、自分たちに何ができるのかを考え、発信する方法について検討し、発信活動に取り組むことができる。								
			学びに向かう力、人間性等		海洋ごみ問題を自分事として捉え、解決に向けて主体的に活動することができる。								
具 体 的 な 学 習 プ ラ ン	実施月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	単元・活動の流れ	海をとりまく環境問題について考えよう											
		○GTから海洋ごみ問題について話を聞く。 ◇小木の海洋ごみ問題について調べよう。 ・各町内のごみ調査に出かける。 ☆ごみ拾いの結果を表に記録する。 ☆小木のごみマップにまとめる。 ◇イカす会に参加しよう。 ○活動に参加し、イカす会後の清掃活動に取り組む。 ・ごみの発生源と理由を考える。 ○小木の海中ごみを調べる。 ・何が落ちていたのか考える。 ・なぜ、海中にもごみが落ちているのかを考える。 ☆海中ごみの種類と改善策を表にまとめる。					◇海洋ごみを減らすためにできることを考えよう。 ・「いつでも、だれでも、どこでも、一人でもできること」と「大人の力を借りてできること」に分ける。 ☆「小木小海ごみ0宣言」にまとめる。 ☆小木提案書にまとめる。 ◇「小木小海ごみ0宣言」の発信方法を考えよう。 ○どのような発信方法があるか知る。 ・自分たちで何ができるのか、様々な発信方法の良さ悪しを考える。 ・適した発信方法を話し合う。 ☆動画で「小木小海ごみ0宣言」を発信する。			◇提案書を書こう。 ○提案書を書くための資料を集める。 ○社会全体として取り組むことを再度検討する。 ・必要な資料や内容を話し合う。 ☆提案書プランを作成する。 ○行政機関に行き、提案するまでの流れを覚えてもらう。 ○内容を一緒に検討する。 ・学んだことをもとに再度練り直す。 ☆提案書としてまとめる。			
		評価方法	・活動の様子(行動観察) ・情報や資料などのふり返し					・活動の様子(行動観察) ・情報や資料などのふり返し ・成果物			・活動の様子(行動観察) ・情報や資料などのふり返し ・成果物		
		指導体制	・能登里海教育研究所 ・能登海上保安署					・能登里海教育研究所 ・能登ほっとライン(有線放送)			行政機関		
教科等の関連	【社会】【理科】【里海科】					【社会】【理科】【里海科】 【プログラミング教育】			【里海科】【国語】				

◇課題の設定 ○情報の収集 ・整理、分析 ☆まとめ、表現

令和2年度 第6学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画

学年テーマ		海にかかわる仕事について発信しよう										総時数	70時間
めざす児童の姿	漁師をはじめとした海にかかわる職業について調べることを通して、「海を利用する」仕事の多様さを知るとともに、地域を愛する態度を養う。	育てたい力	知識及び技能		海にかかわる仕事の体験や施設の見学を通して、主体的にかかわりながら課題を見いだすことができる。								
			思考力, 判断力, 表現力等		海にかかわる仕事についての課題解決に向けて, 情報を収集し, 分析することができる。								
			学びに向かう力, 人間性等		海にかかわる仕事について自分が設定した課題を解決することができる。								
実施月		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
具体的な学習プラン	単元・活動の流れ	漁師の仕事について知ろう。 ○イカす会に参加し漁師の仕事について興味を持つ。 ◇漁師の仕事について調べよう ○漁法や漁船などについて調べる。 ○漁師さんの1日を調べて体験する。 ○乗船体験をする。 ・漁師の仕事についてまとめる。 ☆新聞にまとめる。				海にかかわる仕事について知ろう。 ◇海にかかわる仕事について調べよう。 ○1学期の学習を受けて、それ以外に海にかかわる仕事がないか考える。 ○興味を持った仕事について、どんな仕事なのか調べる。 ○施設や仕事場を見学する。 ・調べた職業についてまとめる。				里海発表会で発信しよう。 ◇調べたことをプレゼンテーションソフトを使ってまとめて(発信)発表しよう。 ○どのような発信方法があるか考える。 ○効果的な発信方法や表現方法を学ぶ。 ・調べたことを様々な表現方法を選択し, まとめる。 ☆里海発表会で他学年に発表する。			
	評価方法	・活動の様子(行動観察)・壁新聞 ・情報・資料, 活動のファイル				・活動の様子(行動観察) ・情報・資料, 活動のファイル				・活動の様子(行動観察)・プレゼン ・情報・資料, 活動のファイル			
	指導体制	・小木漁協 ・能登里海教育研究所など				・小木漁協 ・能登里海教育研究所 ・海上保安署 など							
	教科等の関連	【社会】【里海科】				【社会】【里海科】				【里海科】【国語】			

◇課題の設定 ○情報の収集 ・整理, 分析 ☆まとめ, 表現

里海活動 実践報告集

(令和元年度 1～2学期)

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは、児童が繰り返し関わることのできる自然であるとともに、四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では、身近な自然の例として、川や土手、野原のほか、海や山なども掲げられている。そこで、本校の海洋教育と関連し、身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九子の森」、校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の3つに設定した。1年を通して、里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで、見られる生き物や様子が違うこと、季節による様々な自然の変化に気付くことをねらいとしている。

2 単元目標

年間を通して身近な自然に触れ、近くの公園まで散歩したり、自然に触れ合ったりする活動を通して、身近な自然に関心をもち、季節の移り変わりを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それらを表現している。	自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付いている。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	諸感覚を通して里海の自然と触れ合う。 ・のと海洋ふれあいセンターの海辺へ行き、里海の自然と触れ合う。 ・夏の時期に見られる海藻を採集する。	・事前に、のと海洋ふれあいセンターの方にどのようなねらいをもった学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣、マリンスーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見つけて採集した海藻について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し、前時の磯遊びで見つけて採った海藻について、職員から名前を聞く。 ・海藻に触れて感じたこと、気がついたことを伝え合う。	・児童の主体的な表現や気付きを大切にするため、海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。
3	海藻の標本づくりをする。 ・採ってきた海藻を洗って乾かし、標本にする。 ・名前や海藻について思ったことをカードに書く。	・聞いてきた名前を書き、海藻に触れた時の感想を書く。

4	海藻発表会をする。 ・自分の選んだ海藻について紹介する。 ・友達が紹介した海藻について、質問して交流する。 ・標本を見て、自分と友達の表現の違いに気付いたことや新たな発見を伝える。	・友達の話聞き海藻を見直すことで、夏の海藻とじっくり触れ合う時間を確保する。
外部連携／教材等 ・のと海洋ふれあいセンター 東出さん 湊さん 【資料】 能登里海教育研究所『海の観察ガイド』		

5 活動の様子



磯観察の様子



自然観察室にて



標本づくり



6 成果・課題

- 進んで里海の自然と触れ合うことで、諸感覚を通しての気づき生まれ、夏の自然について知ることができた。
- 磯観察では生き物に興味関心がいきがちだが、海藻に視点を絞って説明していただいたおかげで、海藻についての気づきを多くもつことができた。⇒ 自学ノートに聞いてきた話や見てきた海藻について書いている子もいた。
- 東出さんに採ってきた海藻について丁寧にお話をしてもらったおかげで、児童は生き生きと活動していた。
- ▲屋外での体験活動は、天候に左右されることがあるので、予定の日に行くことが難しい。
- ▲海辺は広く、危険が伴うこともあるため、安全面に十分配慮する必要がある。
- ▲海の状態によっては行けない場所があり、そこに生えている海藻を採集することができないこともある。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・アマモは長くてぷるぷるで、触ると丸いぷつぷつがありました。
- ・ツルモは長くて茶色です。私のあしからあごまでと同じ長さです。
- ・フサイワズタは触るとぶちぶちで、ぬるぬるです。
- ・海藻は、さわるとぬるぬるする。わかめみたいなにおいがする。

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

海の生き物を観察したり、飼育したりする活動を通して、身近な海や生き物への親しみや関心を持たせるとともに、生命の不思議さを感じ、それらを大切にしようとする心情を持つことができるようにする。

2 単元目標

- ・身近な海の生きものを探したり、飼ったりする活動を通して、育つ環境・変化・成長の様子に関心を持ち、海の生きものと親しみ、大切に育てることができるようにする。
- ・海の生き物と継続的な関わりを通して、それらが成長していることや生命を持っていることを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心を持って関わり、生きものに親しみを持ち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 2	海にいる生きものを知る。 ・見たことのある海の生きものを話し合う。 ・知っている海の生きものについて図鑑で調べる。	・小木の海や水族館などで見た生き物について発表し、これからの学習に興味・関心・意欲を持たせる。
3 4 5	海の生きものを観察、採取する。 ・のと海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、生きものを見つけ、採取する。 ・採取した生きものを観察し、名前や特徴を教えてもらう。	・事前に、どのような生きものがあるか予想していく。 ・救命胴衣、マリンスーツを着用し、安全に気をつけるようにする。
6 7	海で見つけた生きものについてふり返る。 ・海にはどんな生きものがいたのか、観察メモや写真をもとにグループごとにふり返る。 ・見つけた生きものを「いその生きものカード」にまとめ、特徴(大きさ・色・手触りなど)をメモする。	・採取時の磯の写真を拡大提示し、観察した場所や採取した生きものを思い出せるようにする。 ・生きもの名前だけでなく、特徴も書くようにする。
8	生きものカードを「いその生きものマップ」に貼る。 ・「いその生きものカード」を発表し、見つけた場所と特徴を明らかにしながらマップに貼っていく。 ・マップを見て気付いたことを交流し合う。	・グループごとに見つけた生きものを「海の生きものマップ」に貼る。 ・今後の学習の見通しを持たせる。

外部連携／教材等

- ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生
- ・のと海洋ふれあいセンター

【資料】・能登里海教育研究所『海の観察ガイド』 ・小学館『水の生物』

5 活動の様子



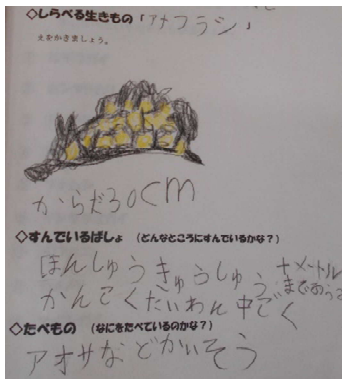
海の生き物観察①



海の生き物観察②



海の生き物観察③



生きものカード



海の生きものマップ

6 成果・課題

- 実際に海（磯）に出かけ、海の生きものを観察したり採取したりすることで、どこにどんな生きものがすんでいるのか、自分の目で確認することができ、海への親しみを持つことができた。
- 観察した生きものを「海の生きものマップ」としてまとめたことで、2学期の学習の見通し（海の生きもの水族館づくり）や海の生きものへの興味、関心を持つことができた。
- ▲磯観察の学習は、移動時間も含めて3校時設定したが全体的に窮屈であった。磯での観察時間やレクチャールームでの学習時間をもう少し長くすれば、海の生きものに対する興味・関心や理解がより深まったように思う。

7 子どもの感想

- ・みんなで海の生きものをつかまえてたのしかったです。ぼくは、モクズガニをつかまえたら、たまごをいっぱいもっていたのでびっくりしました。
- ・アメフラシをさわったら、むらさき色のえきがいっぱい出てきたのでびっくりしました。いろいろな海の生きものの名まえがわかったからべんきょうになりました。
- ・イソギンチャクにゆびを入れたら、ひっぱられて気持ちよかったです。フナムシはすばやくうごいていたのでつかまえにくかったです。
- ・アメフラシをさわるとぷにぷにして気持ちよかったです。ヤツデヒトデをさわるとすこしちくちくしていました。ホンヤドカリはあざいところからつかまえやすかったです。
- ・ムラサキウニは、ちくちくしていたからこわかったです。でも、いろいろな生きものをつかまえてたのしかったです。

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

動物を飼う活動を通して、どんな生きものに対しても成長の変化や様子に関心をもって、働きかけることができるようにし、日々の生活の充実につなげていくため。

2 単元目標

身近な生きものを探したり、観察したりしながら継続的に飼育活動を行い、育つ環境・成長・変化の様子に関心をもつとともに、生きものに親しみをもち大切にしようとする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心をもってかかわり、生きものに親しみをもち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話のしかたを工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くことができるようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	育てたい生きものを話し合う。 ・1学期に見つけた海の生きものを振り返る。	・1学期の時の海に行った写真や作成した海マップを提示する。
2 3	海の生きものを採集する。 ・海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、育てたい生きものを見つけ、採集する。	・救命胴衣、マリンスーツを着用する。
4 6	育てる生きものについて調べる。 ・生きものが好むすみかとお餌を調べ、まとめる。 ・すみかに必要な材料を集めに海に行く。 調べたことをもとに、すみかを作る。 ・水槽の中にすみかを作り、生きものを入れる。	・本や図鑑を見て調べる。 ・生きものをつかまえた場所から材料を集める。
7 10	水族館をつくる計画を立てる。 ・目的を確認し、計画を立てる。 ・生きものの観察を繰り返し行い、観察したことをカードにまとめる。	
11 14	水族館の準備をする。 ・招待状やゲーム、景品などを作成する。 ・生きもの紹介カードを作成する。 ・招待する練習をする。	
15 16	水族館に招待する。 ・1年生とお世話になった先生方を招待する。	

17	生きものを海に返しに行く。	・今後について子どもの思いを大切にしながら、生きものの幸せについても考えるようにする。
18	・生きものについての幸せを考え、話し合う。 ・お別れの手紙を書き、生きものを海に返す。	
外部連携／教材等		
・能登里海教育研究所 浦田 慎先生 能丸 恵理子先生 ・のと海洋ふれあいセンター 【資料】能登里海教育研究所 『海の観察ガイド』		

5 活動の様子



すみか作りの様子



九十九っ子水族館



生きもののお別れ会

6 成果・課題

- 実際に飼育活動をすることで、生きものへの愛着がわき、責任をもって飼育する姿が見られた。
- 海の生き物と継続的なかわりを通して、成長の様子や生命を持っていることを実感できた。
- 「九十九っ子水族館」や「お別れ会」を計画、実践することで、活動意欲が高まり、達成感が持てた。
- ▲計画していた時数より少しオーバーしたため、ほかの単元の学習時間に影響があった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・いつもふれあいセンターに行ったら、おでむかえしてくれてありがとう。広い海にいたのに、水そうのせまいところでがまんしてくれてありがとう。海にかえっても元気でくらしてください。
- ・今までありがとう。今どかえしてあげるからね。おかあさんに会いたかったね。ごめんね。海でくらしてもわたしたちのことわすれないでね。
- ・わたしたちといっしょにいてくれたんだけど、水そうはせまかったかもしれないね。広い海で家ぞくと元気にくらしてね。たのしい時間をありがとう。大すきだよ。わたしたちのことわすれないでね。
- ・いままでいっしょにいてくれてありがとう。えさは海にかえったら自分でさがしに行つてね。たいへんだけど、自分でしなきゃいけないからね。海は広いから気持ちがいいと思うよ。
- ・またどこかで会えるといいな。かなしいときには、わたしたちのこと思い出してね。わたしはわすれないよ。

1学期 3年 単元名「わたしたちの海を知ろう ～どんな生き物がすんでいるかな～」（18時間）

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

身近な海と触れ合うことで親しみを持ち、ふるさとを大切にしていこうという気持ちを育む。

2 単元目標

九十九湾での磯観察や、見つけた生き物を記録したハンドブック制作を通して、身近にある海のすばらしさに気付くことができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	① 海の生き物に興味を持ち、課題を見いだしている。 ② 課題について必要な情報を適切に収集し、計画的に調べている。 ③ 調べたことや考えたことを、相手意識を持って分かりやすく表現している。	④調べたことを他の地域の人に伝えるために活動している。	⑤課題解決するために、関係する専門機関の方や友達と、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海のよさについて話し合う。 ・小木の海はどんな海か、自分たちの考えを話し合う。	
2 く 6	小木の海の様子について知る。 ・乗船体験を通して、海上から小木の町や海の様子を観察したり、海の深さを調べたりする。 ・小木の海の特徴を浦田先生から聞く。 ・調べたことを地図にまとめる。	・海上保安署に里海研究所を通して連絡してもらい、事前に乗船者名簿を提出。 ・救命胴衣を着用する。
7 く 10	小木の海の生き物について調べる。 ・小木の海にはどのような生き物がいるのかを予想する。 ・のと海洋ふれあいセンターで磯観察をし、どんな生き物がいるのか調べる。 ・調べたことをワークシートにまとめる。	・生き物の写真を撮る。 ・児童がハンドブック制作時に想起しやすいように、生き物が動く様子を動画に残したり、海そうを持ち帰り冷凍保存したりする。
11 く 12	ハンドブックの内容について話し合う。 ・小木の海のすばらしさを誰に伝えたいか考える。 ・小木の海のすばらしさを伝えるには、どんな内容のハンドブックであればよいかを考える。	・構成を考えるための資料として、複数のハンドブックを準備する。

13	小木の海の良さを知らせるために、小木の海に生息する生き物のハンドブックを制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の動画や海藻を見て、生き物の様子を想起できるようにする。 ・国語科「ざいりょうを集めてほうこくする文章を書こう」と連携する。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物のページを作る。 ・「はじめに」「九十九湾のコーナー」「索引」「表紙・裏表紙」に分業してページを作る。 ・製本する。 	

外部連携／教材等

- ・のと海洋ふれあいセンター
- ・能登里海教育研究所
- ・金沢大学臨海実験所
- ・能登海上保安署
- ・能登町立公民館（15施設）
- ・コンセールのと
- ・柳田教養文化館

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』

5 活動の様子



乗船体験



磯観察



ハンドブック作成

6 成果・課題

- 児童にとっての身近な海や町の様子を海上から観察することで、自分たちの海や町を新しい視点で捉えることができた。それによって、小木の海や町について改めて考える意欲につながった。
- 能登町の町民に向けてハンドブックを提示することは児童の意欲に繋がった。また、ハンドブックを夏休み中に展示してもらえたことで、各地域から好評をいただき、それが児童の達成感にも繋がった。
- ▲野外での体験活動が多くなるので、体調面や安全面での配慮を事前に確認する必要がある。海上にでる場合は、風の影響で体感温度が下がるので上着を持たせた方がよい。
- ▲時間に余裕があれば、ハンドブック展示協力施設への依頼文の作成や電話依頼をさせたかった。

7 子どもたちの反応やミニ感想

- ・船に乗って海のふかさを調べました。九十九わんの中はなみが弱く、九十九わんの外はなみが強いことが分かりました。海がすけてきれいでした。九十九わんはすごいと思いました。また船に乗りたいです。
- ・ハンドブックがやっと出来上がりました。めちゃくちゃうれしいです。家に持って帰ってじまんしました。はやくうしつの人ややなぎ田の人たちに読んでほしいです。

2学期 3年 単元名「わたしたちの海を守ろう ～小木のきれいな海をのこそう～」(18時間)

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

身近な海の環境を調べ、美化する方法を考え実行することでふるさとを大切にしていこうという気持ちを育む。

2 単元目標

身近にある海が、かけがえのないものであることに気づくとともに、海の環境を知り、守るために自分たちができることを考え、実践することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①海岸の環境に興味を持ち,主体的に漂流物を拾ったり,調べたり,海の美化活動のために,課題を見いだしている。 ②課題について必要な情報を適切に収集し,計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを,相手意識を持って,分かりやすく表現している。	④海の環境を美化するために活動している。	⑤課題解決するために,関係する専門機関の方や友だちと,共同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海の環境について話し合う。 ・小木の海の環境について、磯観察や普段の生活の経験をもとに話し合う。	
2 5 6	海の環境を調べる方法について考え、調べる。 ・東町の海岸でごみの収集を行う。 ・集めたごみを種類ごとに分別する。	・ごみの分別作業では危険が伴うので、海上保安署の方に協力をお願いします。
7 8 9	海をきれいにする方法考える。 ・ごみの分別活動を通してわかったことをまとめる。 ・海をきれいにするために自分たちにできることを考える。 ・きれいな海を守りたいという思いを伝える方法を考える。	
10. 18.	九十九湾の美化を呼び掛けるために、ポスターとチラシ(ティッシュに入れる小さなもの)制作に取り組む。 ・海岸の調査を通して自分たちが持った思いを、ポスターとチラシに表現する。 ・制作したポスターとチラシを家庭や地域の人に配る。	

外部連携／教材等

・能登海上保安署 ・小木地区のお店・クリニック等

5 活動の様子



東町海岸でのごみの収集



分別したごみ



ポスター制作・配布

6 成果・課題

- 実際に海岸へ行ってごみを集めたことで、海の環境問題が自分たちにとってより身近な問題だと感じることができていた。
- 海岸清掃を何度も行っている5年生とともに活動したことで、初めて海岸清掃を行う3年生にも収集・分別の活動がスムーズだった。
- 海上保安署の方々に協力をお願いし、ごみの調査活動を行った。海岸に落ちている危険物についての事前指導をしていただいたことで、安全に活動ができ、児童の安全面への意識を高めることもできた。なお、安全の確保のために軍手を着用した。
- ▲例年、海の環境保全を地域住民や観光客に向けて、イカす会（5月頃）にて呼びかけている。学年をまたいだ活動になるため、指導計画や方法を検討する必要がある。

7 子どもたちの反応やミニ感想

- ・ごみ拾い、ごみ調べをしました。さびているごみは、遠いところから来たことが分かりました。小木の海がきれいになってとってもうれしかったです。
- ・ごみがたくさん落ちていました。町にポイ捨てされたごみが、川をつたっていつか海に流れることが分かりました。ごみのせいで、生き物がけがをしまうのはいやだと思いました。
- ・みんなでごみをすてないようにして、みんなで海の生き物を守りたいです。
- ・ごみ拾いをして、りょうしさんが使ったひもが多くてびっくりしました。魚たちが人が捨てたごみを食べるかもしれないから、きれいにしたいと思いました。
- ・心をこめてポスターを作りました。貼ってもらえるといいです。

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

イカが能登町の有名な海産物であることを知り、ふるさとの海への誇りの気持ちと愛着を育む。

2 単元目標

小木のイカについて調べ、ふるさとの海の素晴らしさに気づき、魅力を伝えることができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通じて、自らの課題を見いだしたりしている。 ②課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④イカについて調べ、私たちの町がなぜ「イカの町」と言われているのか考えることができる。	⑤課題解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	次	学習活動	指導上の留意点
一	1	学習の見通しを持ち、課題意識を持つ。 ・イカす会での経験やこれまでの海洋教育から、小木の町について知っていることをまとめる。	
	2 3 4	「小木の町＝イカの町」について調査する。 ・能登町の小学4年生にアンケートを取る。 ・アンケート結果をまとめる。 ・課題を見いだす。	・アンケートの事前準備をしておく。 ・能登町の小学校に依頼する。
	5 6 7	小木のイカについて調べ活動をする。 ・イカのおいしさの秘密を探るため、「体のつくり」「イカ釣り漁」「イカの料理・加工品」の3つのグループに分かれて、調べる内容を決める。 ・グループごとに調べ学習をする。	・目的がぶれないようにグループを編成する。
	8 9	調べたことを交流する。 ・グループごとに調べたことを発表し合う。 ・もっと知りたいこと、調べたいことについて考える。 ・2学期の学習の見通しを持つ。	・インターネットの信憑性についておさえておく。

外部連携／教材等

「イカのほん」 一般社団法人 能登里海教育研究所・能登小木港スマイルプロジェクト実行委員会

5 活動の様子



イカす会の参加



アンケートの集計



調べ学習の様子

6 成果・課題

- 能登町の小学生の実態をアンケート調査で把握できたため、学習意欲が高まった。
- アンケート結果から、自分も知らないということも確認でき、探求心も高まった。
- 調べ学習の限界に気付くことで、2学期への見通しを持つことができた。
- ▲調べ学習で活動を終えてしまった。GTや見学までできると良かった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・「小木の町はイカの町」だと当たり前だと思っていたけど、能登町の4年生たちは全然知らないと分かりました。でも、なんで有名なのかぼくたちも知りません。この勉強で有名な理由を知りたいです。ほかにも、イカつりや料理をたくさん調べたいです。
- ・イカす会に参加して、小木はイカが有名だと分かりました。でも、アンケートではほとんどの人が知らないと分かりました。とても不思議です。もっと有名だと知ってもらうためにどうすればいいのかなと思いました。2学期からの勉強が楽しみです。早くイカについてくわしく知りたいです。

小木小学校 里海アンケート

() 小学校 () 番

☆ 質問に答えてください。

① 小木の町は「イカの町」と言われているか知っていますか。 はい・いいえ

② ①でいいと答えた人に聞きます
小木の町はなぜ「イカの町」と言われているか、知っていることを書いてください。

③ イカは好きですか。 はい・いいえ

④ イカの料理は好きですか。 はい・いいえ

⑤ あなたの知っているイカ料理を教えてください。

アンケートの協力ありがとうございました。
小木小学校 4年より

里海アンケート

<アンケートを集計しよう>

4年 番名前()

質問①	はい	いいえ
宇出津小学校	10	16
柳田小学校	2	17
松波小学校	8	5
越川小学校	3	4

質問②

①でいいと答えた人の理由を聞いてみる。

有名で全国的に知られているから。
イカが獲れるから。
イカが食べられるから。
イカが住んでいるから。
イカが住んでいるから。
有名で全国的に知られているから。
イカが獲れるから。
イカが食べられるから。
イカが住んでいるから。

質問③	はい	いいえ
宇出津小学校	24	2
柳田小学校	14	5
松波小学校	12	1
越川小学校	7	0

アンケートの結果

質問④

	はい	いいえ
宇出津小学校	21	4
柳田小学校	13	5
松波小学校	12	1
越川小学校	5	2

質問⑤

イカについて調べたこと。

イカの種類
イカつり
イカつり船
イカつり船の歴史
イカつり船の構造
イカつり船の乗組員
イカつり船の乗組員の役割
イカつり船の乗組員の服装

次回に向けて...

① イカつり船の歴史、イカつり船の構造、イカつり船の乗組員の役割、イカつり船の乗組員の服装について調べる。

② イカつり船の歴史、イカつり船の構造、イカつり船の乗組員の役割、イカつり船の乗組員の服装について調べる。

③ イカつり船の歴史、イカつり船の構造、イカつり船の乗組員の役割、イカつり船の乗組員の服装について調べる。

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

イカが能登町の有名な海産物であることを知り、ふるさとの海への誇りを持ち、愛着の心を育む。

2 単元目標

小木のイカについて調べ、ふるさとの海の素晴らしさに気づき、魅力を伝えることができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通じて、自らの課題を見いだしたりしている。 ②課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④イカについて調べ、私たちの町がなぜ「イカの町」と言われているのか考えることができる。	⑤課題を解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1 ～ 6	「小木の町＝イカの町」について詳しい人から話を聞く。 ・漁協に行き、イカ釣り漁について学ぶ。 ・地域の方からイカ料理について学ぶ。	・GT や協力者と事前の打ち合わせを行う。 ・どこまで学習しているのか、何を学ぶための学習かを明確にしておく。
二	7 ～ 9	何について、どのように発信するか考える。 ・調べたことから伝えたいことをランキング化する。 ・どのような方法で発信するのか話し合う。 ・今後の学習計画を立てる。	・アンケートの結果を参考に決める。 ・目的意識を確認する。
三	10 ～ 15	発信する準備をする。(①「小木の町＝イカの町」の理由) ・紙芝居のストーリーを考える。 ・ストーリーにぴったりの写真を考える。 ・漁協へ写真撮影に行く。(イカ釣り船の内部も撮影) ・紙芝居を仕上げ、読む担当を決める。	・イカ釣り船の出航状況を漁協と確認する。
	16 ～ 20	発信する準備をする。(②小木のイカ料理) ・レシピ本にしたいイカの部位ごとの料理を話し合う。 ・レシピ本を作成するために、調理実習を行う。 ・レシピ本を作成する。	・部位ごとの料理、小学生でもできる料理を中心にする。 ・調理して終了することのないようにレシピ本作成と合わせて計画する。

外部連携／教材等

【紙芝居作成】小木漁協 坂東博一さん イカ釣り船 永宝丸の漁師の方々

【イカレシピ本作成】 和平商店：フードコーディネーター 瀬川しのぶさん

宮下順子さん、竹川政枝さん、東山隆子さん

能登里海教育研究所 木下靖子さん

能登町の小学4年生（鵜川小学校、宇出津小学校、松波小学校、柳田小学校）

「イカのほん」一般社団法人 能登里海教育研究所・能登小木港スマイルプロジェクト実行委員会

5 活動の様子



漁協見学の様子



小木イカ調理実習の様子



何をどのように発信するか話し合う



紙芝居の練習風景



レシピ本の作成



完成したレシピ本と一緒に

6 成果・課題

- 1学期のアンケートをもとに、常に目的意識と相手意識をもった活動ができた。
 - 活動時期とイカ釣り船寄港の時期が重なったため、紙芝居作成に大変役立ち良い機会となった。
 - 小木の地域の方々の協力もあり、二度もイカの調理実習・料理の仕方を教えていただいた。
 - 教師の考えている発信方法とは違ってはいたが、児童同士で何ができるか、どのように発信すればよいか、について主体的に考えることができた。
- ▲2つの活動を同時並行で行ったため、時間の余裕がもう少しあるとよかった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・口、足、顔、肝臓、体、ひれの部分の名前と特徴が知れてよかったです。イカはコリコリした部分が多いんだなと思いました。皮をはぐところが楽しかったです。先生が見本でイカを切っていて、きれいでした。自分でやってみてできると分かったので、家でもやってみたいです。
- ・私は、漁師さんたちがイカをどうやったらたくさんとれるのか、研究していることを初めて知りました。一本凍結やブロック凍結もあり、それが小木の自慢・ブランドだと分かりました。小木にいて幸せだと思いました。今日分かった「小木の町はイカの町」の理由を早く能登町の4年生に伝えたいです。そして、知ってもらいたいです。

～海を知る・守る～

1 単元設定の理由

・小木の海の環境について知り,問題点に気付き,小木の海の環境を守るために自分たちにできることを考える。

2 単元目標

身近にある「海洋ごみ」の現状を知り,小木だけの環境問題ではないことに気付き,環境保全活動を通して,主体的に環境問題に関わり,自分や社会全体でできることは何かを考え実践しようとする。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分たちの住む地区の環境問題について知り,ごみ調査やごみ拾いに進んで取り組んでいる。	海の環境に問題を見いだし,計画的に追求し,自分たちにできることは何かを考察し,表現している。	地区のごみ調査の結果を記録し,グラフとしてまとめている。	人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について理解している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海の環境を振り返る。 ・昨年度までの活動を振り返り,現在の環境について話し合う。 ・どこにごみが多くあるか予想する。	・アンケートを取る。 ・次時の見通しを持つ。
2 3	現状を知る。 ・前時で予想した場所を見に行く。 ・どんなごみが落ちていたかを確認する。	・事前に下見へ行き,予想していない場所を把握しておく。
4	「海洋ごみ」の講義を聞く。 ・ごみ問題について話を聞く。 ・深刻な問題であることに気付かせる。	・GT(里海教育研究所)による講義を依頼する。 ・事前に講義内容を把握しておく。
5	学習計画を立てる。	
6 10	ごみ調査に出かける。 ・GW中に自分の地域,GW明けから調査していない地域に出かける。 ・ごみ拾いをする。 ・学校に戻ってきて分別(燃えるごみ・燃えないごみ・プラスチック・漁具)する。	・GW中のごみ拾いを保護者に伝える。 ・軍手,ごみ袋の用意をする。

外部連携/教材等

能登里海教育研究所 木下 靖子先生(GT) 小木中学校2年生

5 活動の様子



ごみ調査の様子



GTによる講義



ごみ拾い（新町）の様子



ごみ拾い（下浜）の様子



小中合同海岸清掃の様子



ごみの分別の様子

6 成果・課題

- 現状を確認，GTによる講義の流れが，児童の学習意欲を引き出すきっかけとなった。
- ごみ拾いを続けることで，小木や海の環境に対する意識を高めた。
- 海洋ごみの深刻さについて理解し，意識の流れを切らすことなく，2学期への見通しにつなげることができた。
- ▲繰り返しのごみ拾いのため，活動時間が1つの地域に3時間は必要となる。
- ▲4年生のイカす会の活動から約1年間環境学習から離れたため，導入のつながりが難しかった。
カリキュラムの見直しが必要。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・石川県以外でも他の国とかで，ごみがたくさんあることにびっくりしました。その中でもプラスチックが多いと分かりました。魚がその小さなごみを食べて死んでしまうことがあると，初めて知りました。だから，海にごみを捨ててほしくないと思います。
- ・今日，ごみ拾いをしてみて，海にも道路にもごみが落ちていて悲しかったです。誰がどうして捨てるのかとても不思議でした。地域によってごみの量や種類がバラバラでびっくりしました。自分の家の近くにはなかったけど，下浜や東町にはプラスチックやたばこがいっぱいありました。ごみを拾って分別しても，まだまだごみは増えるんだと分かりました。

～海を知る・守る～

1 単元設定の理由

小木の海の環境について知り、問題点に気付き、小木の海の環境を守るために自分たちにできることや社会全体としての取組を考える。

2 単元目標

身近にある「海洋ごみ」の現状を知り、小木だけの環境問題ではないことに気付き、環境保全活動を通して、主体的に環境問題に関わり、自分や社会全体でできることは何かを考え実践しようとする。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分たちの住む地区の環境問題について知り、自分にできることについて主体的に取り組んでいる。	海の環境に問題を見だし、計画的に追求し、自分たちにできることは何かを考察し、表現している。	環境保全や啓発活動に取り組んでいる。	人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について理解している。

4 単元の指導計画

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一	1 2	小木の海の環境を振り返る。 ・1学期の活動を振り返り、ごみマップ作りを行う。 ・どこにどんなごみがあるか、なぜ多いのかについて話し合う。	・調査結果をデータ化する。 ・マップやデータをもとに、種類と要因についてまとめる。
二	3 5	自分たちにできることについて考える。 ・ごみ問題で困っている人から話を聞く。 ・自分にできること、社会の力を借りてできること（=社会の力）をそれぞれ考える。 ・それぞれの取組についての学習計画を立てる。	・事前に漁師の方と打ち合わせを行い、環境問題と密接に関わっていることを話していただく。 ・自分ですることには限界があること、社会の力も借りないと実現しないことを理解させる。
三	6 12	発信に向けて取り組む。 ・「自分にできること」を「小木小海ごみ0宣言」としてまとめる。 ・どのような方法で発信するか話し合う。 ・動画の例を見て、見通しを持ち、発信内容を考える。 ・能登町民にむけて発信するための動画撮影に取り組む。	・相手意識を再確認し、「広く伝えるための発信方法」に絞って考えさせる。

外部連携／教材等

能登海上保安署 堀川悠介さん 相馬将也さん

能登里海教育研究所 木下靖子さん

底引き網漁師 浦下誠也さん

能登町役場 有線放送「のとホットライン」

【参考動画】「海と日本 PROJECT in かがわ」～海底堆積ごみ処理システム～

～全国初の海ごみ回収処理システム香川県方式～

「海と日本 PROJECT in いしかわ」石川テレビ各地域の動画・写真提供
松波中学校 「私たちは海を守っていきます」

5 活動の様子



海岸清掃の様子



ごみマップ作成の様子



GTによる講義



環境保全の話し合いの様子



九十九っ子発表会



発信動画撮影の様子

6 成果・課題

- 児童の思考の流れに沿って、学習活動・単元計画が実行できた。
- 児童の主體的な思いを実現するための施設、GTが整っているためスムーズに学習ができた。
- 「環境問題」をテーマに多くの方々と関わることができた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・漁師さんは、仕事をしているときにごみが網に引っかかって、破けてしまうから困っていると分かりました。海の中にごみを出さないために、自分に何ができるのか考えてみたいです。
- ・友達と話し合ったり今までの勉強を振り返ったりすると、自分ができることはすごくあると思います。自分じゃできないことも、人の力を借りた方がもっとできることが増えると思いました。ぼくは、ごみが捨ててあっても拾い続け、納得するまでポスターなどで呼びかけたいです。
- ・海洋ごみを減らすためにできることを考えました。小木のほかにも金沢とか内灘とかにごみが落ちてあってびっくりしました。小木の町の人にはごみを捨てないと気を付けてほしいです。みんなにも「捨てないで」と呼びかけたいです。町の人みんなに協力してもらって実現したいです。

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

- ・海の世界連鎖について、実感を伴った理解ができるようにする。
- ・人や動物、植物は互いに寄り合って生きていることを理解し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感じたりすることができる。

2 単元目標

生物と環境について意欲的に追究することを通して、その相互関係について考察し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感じたりすることができる。また、海中でも陸上と同じように食物連鎖によってお互いが寄り合って生きていることを理解できる。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生物と環境を意欲的に追究し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感じたりするとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとしている。	生物と環境について問題を見だし、推論しながら追究し、相互関係について考察して問題を解決している。	生物と環境の関わりについて、問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立て観察、実験を行い、その過程や結果を的確に記録している。	生物と環境の関わりについて、その関わりを実感を伴って理解している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	生き物と空気、食べ物、水との関わりについて考え、学習課題を設定する。 ・既習の学習や体験・経験をもとに、生き物が生きていくためには何が必要であるかを話し合う。	
2	人間が食べている食事の材料のものを考える。 ・相撲大会のめった汁をもとに、食材のものをたどる。 ・食材は全て植物へ行きつくことを確認し、植物は日光を使って自分で栄養分を作ることができることを知る。 ・水中ではどのようなになっているかを話し合う。 ・海藻もジャガイモなどの植物と同じく光合成をおこなっていることを確認する。	陸上の生物から、海中の生物へ視点を転換させていく。
3	動物には植物を食べて生きているものがあること、その動物もほかの動物に食べられることがあることなど、生き物には「食べる」「食べられる」という関係があることを調べる。 ・キツネやカエルなどの食べ物をもとに、植物を食べない生き物の食べ物を確認しながらつながりを考える。 ・水中でのつながりについても既習をもとに考える。 ・生き物の数のバランスが崩れたらどうなるかを考え、話し合う。	既習をもとに、食物連鎖について海中の様子も考え、共生を視점에話し合わせる。

	<ul style="list-style-type: none"> 人間以外の生き物と共生するために自分が何をすればよいかを考える。 	
4	<p>空気中に酸素を出している物は何かを考え、植物が二酸化炭素をとり入れて酸素を出しているかを調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮説をもとに実験方法を考える。 結果を表にまとめ、得られた結果をもとに考察する。 温暖化のことについて解説し、地球規模で今後どのようなことが心配されるかを考える。 	気体検知管の使用方法を確認する。
5	<p>水が生き物や環境とどのように関わっているか、これまでの学習を振り返りながら、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の循環や酸素、二酸化炭素の出入りを図から読み取り、生物と環境との関わりについて考える。 環境を保全しつつ、人と環境とのより良い関係についてどうすべきかを提案する。 	
6	<p>学習したことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物、植物のつながりを空気・食べ物・水の視点を入れてレポートや図にまとめ、自分たちにできることを話し合う。 分かったことや、もっと知りたいことを確認する。 学習を通してこれから自分がどんなことに気をつけていけばよいかを話し合う。 	自分達ができる身近なことから、地球規模の大規模な取組へ視野を広げていく。また、すでに行われている取組についても紹介する。
外部連携／教材等		

5 活動の様子



イカす会にて白山丸乗船



能登高校おおとり丸乗船



着衣水泳

6 成果・課題

- 既習内容を思い出しながら海中の生物の生活の様子を予想したり、映像資料で確認したりすることができた。
- 現在地球規模で起きている環境破壊や変化は食物連鎖に影響を与えており、人間が手を打たなければいけない問題であることを理解することができた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・生き物は関わり合って生きていることが分かった。
- ・動物の食べ物の始まりは全て植物から始まっていることが分かった。

～海を利用する～

1 単元設定の理由

- ・能登の海産物や農作物について調べることで、地場産物にどんなものがあるか知り、それを生かした献立を考えることで、ふるさとに誇りと愛情を育む。
- ・栄養を考えた食事について、課題をもって、栄養素の種類と主な働き、食品の栄養的特長及び 1 食分の献立作成に 関する基礎的・基本的な知識を身につけ、栄養のバランスを考えた 1 食分の献立を工夫して作成できる。

2 単元目標

能登産の海産物や農作物について調べ、それを活用した献立を考え、栄養のバランスのよい 1 食分の献立を考え作ることができるようにする。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
毎日の食事に関心を持ち、食 事を作るときの視点に気付 き、調理実習をふり返り今後 に生かそうとしている。	食品を組み合わせや 1 食分の献立、できあが りの時間や役割分担 など工夫している。	栄養のバランスや食 品の組み合わせを考 え、1 食分の献立を 作っている。	食事は主食、しる物、お かずなどを組み合わせ て作られていることを知 り、材料や目的にあった 調理のしかたを理解して いる。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	食べ物の組み合わせを考える。自分の食生活をふり返る。 ・昨日の昼食について話し合う。 ・自分の普段の食生活について振り返る。 ・学習課題「食べた人が能登町を好きになる里海献立をたてよう」を設定する。	・昨年度の 6 年生が作った 里海給食の写真を提示 し、イメージを持たせる。
2 ～ 3	学習の計画を立て、グループごとに地域食材について調べる。 ・グループごとに地域食材についてインターネットや給食だより等 を活用して、調べ学習を行う。	・インターネット等を使っ て調べたことをグルー プで交流する。
4 ～ 5	地域食材を使って給食の献立を考える。 ・調べた地域食材を使ったり、栄養のバランスや旬の時期を考えたりしながら献立を話し合う。	・給食に出せるように生も のを使わないなど配慮 するよう助言する。
6	考えた献立のプレゼンを行う。 ・自分たちが考えた献立の PR ポイントを紹介する。 ・紹介を、もとに試作品の献立を決定する。	
7	・調理の計画を立てる。 班ごとのメニューの担当を決める。 ガスコンロを使う順番や役割分担についてグループで話し合う。	

8 く 9	計画に従って調理実習をする。	・包丁やガスの使い方を指導する。
10	調理実習を振り返る。 ・味、見た目などについて振り返り、よかったことや改善点を話し合う。	
外部連携／教材等 「能登野菜」HP : http://www.noto-yasai.jp/		

5 活動の様子



里海献立の試作品



調理実習の様子



九十九っ子発表会

6 成果・課題

- 調べ活動を通して、児童の地域食材に対する関心が高まった。「これも石川県で作っているの？」や「これは○に畑があるのを知っとる」などの活発な意見がみられた。
- 様々な料理に関心をもち、自分達が食べたいか、作れるのかという観点で話し合うことができた。
- ▲児童が使いたい材料の中には手に入りにくかったり、単価が高かったりして給食に適さないものもあった。

7 子どもの反応やミニ感想

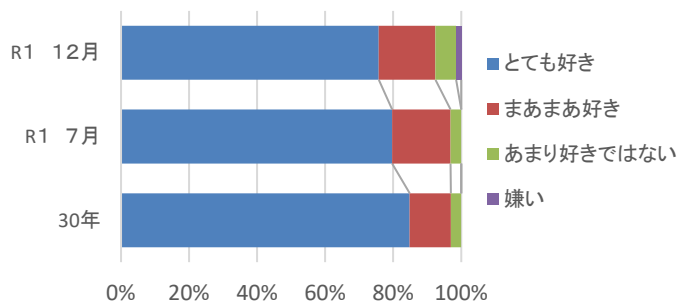
- ・最初はうまく作れるのか心配だったけど、意外とおいしく作れてよかった。低学年には玉ねぎサラダは辛すぎるので工夫したい。
- ・能登や石川県では思った以上にたくさんの種類の野菜も作っているのに驚いた。魚や海藻だけではないことを初めて知った。

アンケート結果

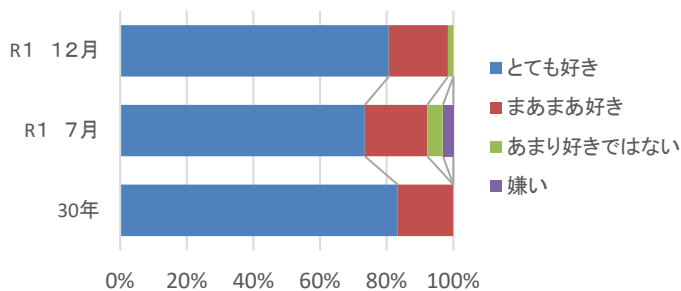
- ・児童用
- ・保護者用
- ・保護者の声

児童用アンケート(R1.2.14 現在)

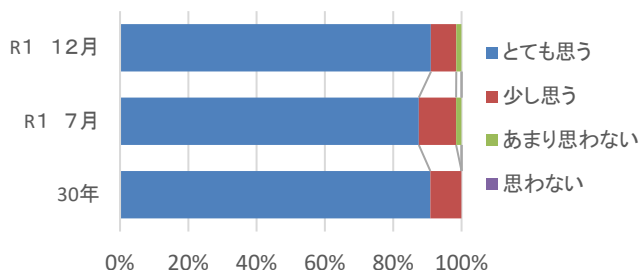
①海での体験活動は好きですか？



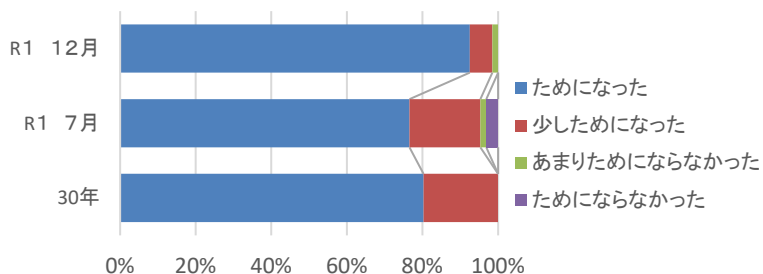
②小木の海は好きですか？



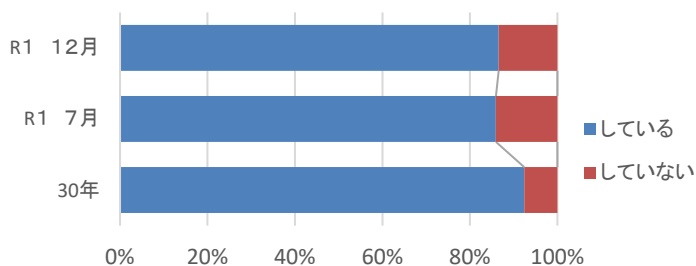
③海を大切にしようと思いますか？



④里海の勉強をして自分のためになりましたか？



⑤地域行事に積極的に参加していますか？



○②～⑤の肯定的回答の数値が上がった。

→海洋教育は2学期メインの内容であること、それを児童が心から楽しく感じていたこと、先生方一人一人が熱心に内容を見直し・指導に当たったことが要因だと考える。

○海洋教育が「自分のためになった」と実感している児童が増えた。

→自身の学びと生活がつながっている内容となっていた。

○本校の児童像である「ふるさとに誇りと愛着」の意識が高まった。

→地域の人材を活用する、カリキュラム構成となっている。

▲海での体験活動が好きであると答えた児童が減った。

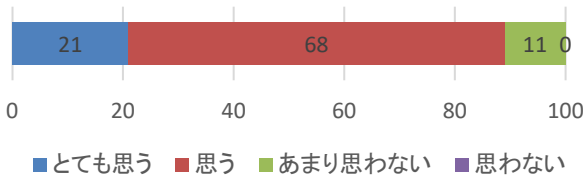
→防災訓練・小中連携による防災教育から、海の脅威を実感しているため、「海は怖いから。」「海は危ないから。」と答える児童がいた。



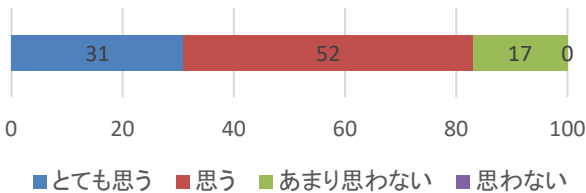
保護者用アンケート(R1.2.14 現在)

I 本校の海洋教育について

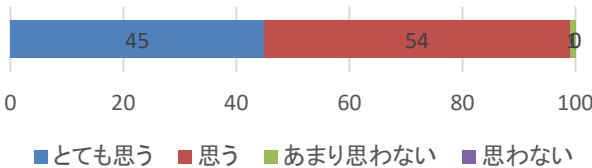
①子どもたちが、どんな里海学習・活動をしているか知っている。



②里海学習・活動が地域振興に役立っていると思う。

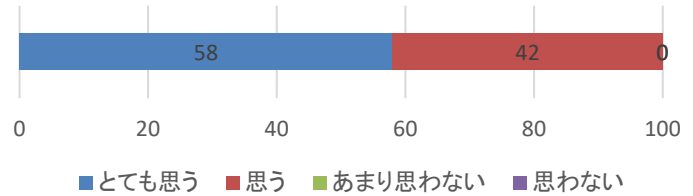


③海洋教育(里海学習)は必要だと思う。

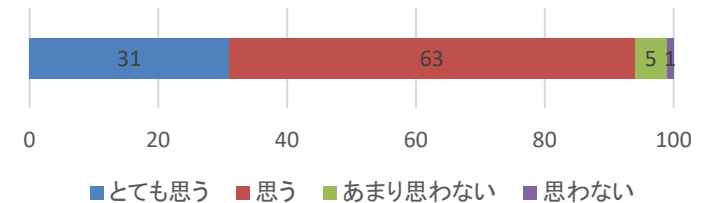


II 子どもたちの様子

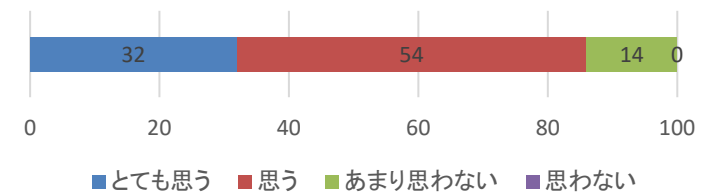
①子どもは、里海学習・活動に熱心に取り組んでいる、楽しみながら学んでいると思う。



②子どもは、ふるさとの海や小木の町のことを考えるようになってきていると思う。



③子どもは、ふるさとに誇りや愛着を持つようになってきていると思う。



III 保護者の声

生まれ育った小木の恵まれた里海環境の中で、海のことを知り、海に親しみ、海の大切さなどを学ぶことができ、ふるさとの魅力やふるさと愛が深まっていく、とても素晴らしい学習活動だと思います。

里海科は、小木小が誇る特色ある教育です。これからも里海に暮らす人々の生活やこれまでの営みに目を向けて自然と共に生きていくことについて、広く学んでほしいと思います。

子どもの話を聞いていると、学習していること、活動を通して興味を持って真剣に取り組んでいるのが伝わります。とても素敵なおことです。こうした学びの機会があるということは、大変ありがたいことです。

ふるさとの海や小木の町を考えることは、子どもにとってとてもいいことだと思います。小木のことをもっと知って、活性化できるような取組になっていくといいと思います。

- どの問いにも肯定的回答が90%近くある。
- 保護者も海洋教育の必要性を実感している。
- ▲発信という点において努力する必要がある。
- HPだけでなく、学校・学級だよりで発信する。
- 校内里海発表会や九十九子発表会への参加を集う。

